

# 平成23年度 授業改善推進プラン 全体計画

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学習指導要領
- ・東京都教育目標
- ・大田区教育目標



**本校の教育目標**  
 人権尊重の精神を基に豊かな人間関係を築き、社会生活を営む上で必要な基礎学力を習得し、豊かな情操と公共の精神を養い、健やかな身体をはぐくむことができるよう、次の教育目標を設定する。

- 心身ともに健康な生徒の育成
- 自ら学び、考え、実行できる生徒の育成
- 礼儀正しい生徒の育成



- ・学校の実態
- ・保護者・地域の期待・願い
- ・育てたい生徒像

**学校経営方針**

- 確かな学力の定着
- 健やかな体づくり
- 豊かな心の醸成
- 未来を切り開く力の育成
- 地域に愛される学校づくり

**各教科の指導の重点**

- 生徒理解に努め、一人ひとりの個性や能力を活かす指導の徹底
- 授業の工夫・改善を推め、生徒の興味・関心・意欲を高める
- 基礎・基本の定着を図るとともに、自ら課題を発見し、解決を図る能力を育てる
- 数学・英語で、少人数習熟度別学習を推進し、学習の個別化・個性化を図り、生徒の個性や能力の伸長を図る
- 数学は、ステップアップ学習を全校で実施し、その結果を基に基礎学力の定着を図る
- 学習指導講師による補習教室を放課後及び土曜日に行い、学習内容の定着が不十分な生徒の基礎学力の確実な習得を図る
- 各教科の特長を活かし、①「体力の向上」②「食育・健康教育」③「ものづくり教育」④「道徳教育」⑤「安全 教育」⑥「人権教育」⑦「心の教育」などを推進する。また、「体験学習」を多く取り入れ、 生きるための学力向上を図る

## 学力向上を図るための基本方針

生徒一人ひとりが学習活動に主体的に参加し、自己実現をめざし、夢を育む学校をつくる

ア 人権尊重の精神を培い、心身ともに健全な生徒を育成する

イ 少人数授業等、授業の工夫・改善を進め、基礎・基本の定着を図り、生徒の個性や能力を伸ばす

ウ 授業改善推進プランを進め、学ぶ意欲や態度を育て、主体的に学習する能力を育成する

エ 各教科、道徳及び特別活動の指導を充実させ、指導内容の厳選とともに、個々の生徒の興味・関心を生かした指導方法及び評価の改善をめざす

**道徳の重点**

- 社会に貢献できる生徒を育てる
- より良い人間関係を育てる指導の充実を図る

**特別活動の重点**

- 行事や生徒会活動・学級活動の活性化を進め、自主性・協調性を培う

**総合的な学習の時間の重点**

- 課題発見学習や問題解決学習により、主体的・創造的な態度を育てる
- 「生き方学習」を推進し、望ましい自己実現を図る

**生活指導の重点**

- 基本的な生活習慣を身につけ、規律を重んじ、礼儀正しい生徒を育てる
- スクールカウンセラーを中心とした教育相談を充実させる

**進路指導の重点**

- 主体的に進路を選択する能力を養う
- 生きがいをもって生活できる力を育成する
- ガイダンス機能を充実させる
- 発達段階に応じた系統的な進路学習・キャリア教育を推進する

本校の授業改善に向けた視点				
指教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	校内における研究や研修の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・火曜日の5校時に授業振り替えを行い、授業時数を確保し、教育課程の完全実施を図る</li> <li>・朝読書の時間を設け、読む力や基礎学力をつける</li> <li>・数学科・英語科で少人数習熟度別授業を行い個に応じた指導を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反復練習を重ね基礎・基本の徹底を図る</li> <li>・数学科・英語科での少人数習熟度別学習において個に応じた指導の深化を図る</li> <li>・体力向上推進プランに基づき、保健体育科の指導の充実・体力の向上を目指す</li> <li>・東京スポーツ教育推進校・大田区教育研究推進校として、健康教育・食育教育を充実させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価、生徒・保護者の評価等を生かし、授業改善を図る</li> <li>・生徒の授業評価を行い、授業の改善や評価に生かしていく</li> <li>・生徒の学習意欲を引き出すために評価と授業の一体化を図る</li> <li>・1学期に、各教科で作成した資料を基に、評価・評定の基準・規準や内容を周知する保護者会を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや学校だより・学年だより・ブログ等を通して学校の教育活動を知らせていく</li> <li>・保護者や地域との行事を充実させ連携を深める</li> <li>・総合的な学習の時間で、地域の事業所と連携し、地域の教育力を生かした教育活動を行う</li> <li>・地域清掃や、地元の御輿担ぎなどのボランティアを通して、奉仕の精神を育成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業や研修を行い、教員の意識を高め、授業力の向上を図る</li> <li>・外部での研修成果を校内で共有していく</li> <li>・教員相互の授業観察を行い、評価しあいながら、互いの研鑽に励む</li> <li>・小中合同研修会で教科等の継続性が図れるように研修を深める</li> </ul>

## 授業改善推進プラン

教科 国語

### 1. 国語における平成22年度授業改善プランの検証

1. 言語事項の中で、漢字に対する学力は小学校からよく身につけている。中学でも範囲を示すとよく学習している。文法事項については生活の中で敬語を使用させ、各学年の事項の復習を心がけた。より充実させたい。
2. 朝読書の時間を大事にし読書に親しむ生活になじませ、新聞記事の紹介もして、様々な文章になじませた。説明文教材の読み取りを確実にするためにも、より効果的な教材探しをし、読み取りのノウハウを指導したい。
3. 聞き取りテストを定期的実施し、生徒も慣れてきて注意深く聞くようになってきている。授業でも生活でも、人の話をよく聞き、自分の意見を組み立てられるよう、重ねて指導していきたい。

### 2. 国語における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>【第1学年】基本的に期待正答率を上回り、小学校での基本事項を身につけている生徒が多い。説明文の読み取りで9.7、文学の読みで10.8ポイント期待正答率を上回った。漢字の書きは7.1ポイント期待正答率を下回った。読み取りの能力を更に伸ばし、学習漢字の復習を重ねていきたい。</p> <p>【第2学年】漢字の書きで1.2ポイント、文学の読みで1.6ポイント期待正答率を下回ったが、その他5項目では特に説明文の読みで8.8、作文で13.2ポイント上回っている。言語事項の復習をし、作文力を伸ばしていきたい。読み取りの力もより確実なものにしていきたい。</p> <p>【第3学年】文学の読み取りで3.9ポイント期待正答率を下回ったが、その他6項目では特に漢字の読みで8.1、作文で15ポイント上回っている。文学作品の場面の展開に即して人物の心情をとらえることを心がけていきたい。</p>
観点別結果の分析	<p>【第1学年】全ての項目で期待正答率・区平均正答率とも上回った。特に読む力は10.2ポイントも上回っている。「基礎」「活用」とも期待正答率を上回っているため、漢字学力の定着を目指し、更に基礎力を伸ばしていきたい。</p> <p>【第2学年】全ての項目で期待正答率・区平均正答率とも上回っている。特に読む力・書く力は大きく伸びている。教科正答率の「活用」では、区を5.6上回ったものの期待値からは3.2下回ったので、特に「表現力」を伸ばす実践的なもの、たとえば字数制限があり自分の意見を述べる短文作りなどに取り組みたい。</p> <p>【第3学年】読む能力で0.5ポイント下回ったが、他4観点は上回っている。説明文の要旨のとらえ方や、文学作品の場面の展開に即した人物の心情をとらえる設問に対する対策が必要である。書く能力は13.9上回り、段落構成など条件に合わせた作文を書く力が育っている。</p>

### 3. 調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. 漢字を書く力の養成  
→小学校の学習漢字の復習を重ねる。各学年で小テストや漢字スキルを活用し、定着を目指す。漢字検定などを利用しながら、積極的な取り組みを支える。
2. 語彙力の養成  
→意味調べ学習を行い、対義語・類義語などを意識させる。朝読書を活用し、語彙を増やす。新聞記事なども紹介し、いろいろな文章に触れる機会を増やす。
3. 観点「読む力」の向上  
→それぞれの学年で文章の展開を追いながら読み取る力を育成する。ワークシートや発問の工夫をし、読みを深める。

### 4. 国語の授業改善策

1. 漢字を書く力の育成  
第1学年:漢字ワークを活用し、学習させる。小テストや定期考査で学習状況を確認する。  
第2学年:小テストや定期考査を活用し、学習させる。漢字検定を活用する。カード等も活用し語彙を増やす。  
第3学年:定期考査の試験範囲の漢字プリント、漢字スキル(ワーク)を活用する。
2. 語彙力の養成  
第1学年:ワーク、ワークシートなどを利用し、学ばせる。辞書をひくたびに付箋を付け、確認をさせる。  
第2学年:対義語・類義語カードや四字熟語合わせ、ワークシートなどを利用し、楽しく繰り返し学ばせる。  
第3学年:授業の導入で慣用句など様々な言い回しを取り上げ、使い方を示しながら学習させる。
3. 観点「読む力」の向上  
第1学年:各文章の特徴をつかみ、深く内容を読み味わうため、発展教材など多くの文章に触れさせる。  
第2学年:作品を味わうポイントを示し、授業で深く読み合う楽しさ・考える楽しさを味わえるように工夫する。  
第3学年:作品の学習ポイントごとに、対話を重視し意見交換をさせ自分の読みの意見を持たせる。

## 授業改善推進プラン 教科 社会科

### 1. 社会科における平成22年度授業改善プランの検証

全学年で資料活用能力を課題とし、授業では映像資料や主題地図、史料などを活用し、作業的な学習を取り入れ、その育成に取り組んだ。また、知識理解面の向上を目指し、定期考査や学期ごとの振り返り学習を行い、長期休業中の課題にも力を入れ、基礎基本の徹底を図った。

反省点としては、授業改善への取り組みが継続的に努力すべき段階であり、資料活用能力や知識理解力の向上が十分な程度には達していない。また、学年ごとに大田区学習効果測定の結果に差があり、全体として学年としての底上げが必要である。

### 2. 社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>【第1学年】概ね期待値と同程度の基礎・活用力を小学校で身につけてきている。今後中学校の学習観点を、しっかりと理解させながらさらに活用力を高めていけるように取り組ませたい。</p> <p>【第2学年】平均して期待値を約8ポイント程度下回っている。基礎的な知識の定着が課題である。</p> <p>【第3学年】期待値を約6ポイント下回る状況で、とくに活用力の範疇(はんちゅう)の「表現力」が課題となる部分である。</p>
観点別結果の分析	<p>【第1学年】どの観点も期待値と同程度の数値であるが、関心・意欲・態度と思考判断の観点がやや低めであり、今後の強化のポイントと考える。</p> <p>【第2学年】どの観点も6～9ポイント下回っており、とくに知識・理解の観点が課題となっている。基礎基本の定着を図ることが必要である。</p> <p>【第3学年】思考判断と知識理解の観点が6～7ポイント下回る状況である。2, 3学期の授業の中で意識的にたくさんの課題を与え、強化することが急務である。</p>

### 3. 調査結果に基づいた授業改善のポイント

#### 1. 全分野における基礎基本の定着

→地理・歴史・公民の各分野の学習の礎は社会的な事象に対する知識理解力であり、この観点の向上が他の観点へ及ぼす影響を鑑み、適宜学習内容を振り返り、システムティックに学習内容を整理することで、基礎基本の定着を図る必要がある。

#### 2. 「社会的な思考判断表現」「資料活用の技能」の観点に重きを置いた授業

→基礎基本の知識を念頭に置き、それらの知識を組み合わせたり、応用させたりして多角的に社会的な事象を捉える力の充実が求められている。また、多数の資料から有益な情報を取り出し、課題を解決するような学習に力を入れていく必要がある。

### 4. 社会科の授業改善策

#### 1. 復習やスモールステップ学習の充実

- ・第1学年…定期考査ごとや学期ごとに学習内容を振り返る機会を設け、知識の定着を図る。また、作業的な学習を取り入れることで、興味関心を抱き、意欲的に学ぼうとする気持ちを育てる。
- ・第2学年…授業の始まりに振り返りの時間を設け、前後の学習内容との関係を踏まえて授業に取り組む。定期考査以外にも知識を定着させる機会を設けていく。
- ・第3学年…授業の始まりに振り返りの時間を設け、前後の学習内容との関係を踏まえて授業に取り組む。また、知識理解力を高めるため、発展学習の課題を精選して与えることで定着を促す。

#### 2. 思考判断能力の伸張をはかる授業の展開

- ・第1学年…基礎基本に基づく思考力を高めるため、視覚的な教材を導入的に用い、資料から手に入れた情報を言語化し情報交換する中で、判断力も高めていく。
- ・第2学年…電子黒板などを有効に活用し、視覚に訴える授業を展開する。また、基礎基本の知識などの定着を図りつつ、その知識を活用し、言語でまとめる機会を積極的に設ける。
- ・第3学年…公民的分野では、法律の条文やグラフ、統計資料、写真資料を活用し、考察する力を養うとともに、それらの資料を複合させて、応用的に社会的な事象を捉える能力を培う。

# 授業改善推進プラン 教 科 数 学

## 1. 数学における平成22年度授業改善プランの検証

倫理的に表現したり、筋道を立てて文章を説明したりする力が不十分であったので、生徒が黒板で解答を書き説明したり、生徒同士で説明し合う場面を多く取り入れながら、より一層理解を深める授業を工夫してきた。こちらから、すぐに正答や解説を与えるより理解も深まり、自分の考えを文字や数式化して表現し伝えたり、生徒同士がお互いを認め合う場面でもあったので、引き続き継続していく。

## 2. 数学における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>今年度の正答率が、期待正答率に対して下回っているものがあった内容の割合。</p> <p>1年 面積と体積は5問中1問(20%)。単位あたりの大きさと速さは2問中1問(50%)。変わり方のきまり・文字と式は4問中1問(25%)。比と比例は5問中4問(80%)。全体として37問中7問(19%)。</p> <p>2年 正負の数のしくみは4問中1問(25%)。1次方程式は3問中2問(67%)。1次方程式の応用は、3問中1問(33%)。比例・反比例は6問中3問(50%)。平面図形は2問中1問(50%)。空間図形5問中1問(20%)。全体として35問中9問(26%)</p> <p>3年 連立方程式4問中1問(25%)。図形の性質と証明は6問中1問(17%)。</p> <p>全体として32問中2問(6%)</p>
観点別結果の分析	<p>今年度の正答率が、期待正答率に対して下回っているものがあった内容の割合。</p> <p>関心・意欲・態度については、1年では、9問中6問(67%)、2年では7問中4問(57%)、3年では7問中2問(29%)。</p> <p>見方や考え方については、1年では、20問中5問(25%)、2年では11問中4問(36%)、3年では13問中2問(15%)。</p> <p>表現・処理については、1年では31問中4問(13%)、2年では18問中4問(22%)、3年では23問中0問(0%)</p> <p>知識、理解については、1年では15問中2問(13%)、2年では25問中7問(28%)、3年では20問中1問(5%)</p> <p>全体としては1年では75問中17問(23%)、2年では61問中19問(31%)、3年では63問中5問(8%)</p>

## 3. 調査結果に基づいた授業改善のポイント

各学年とも、関心・意欲・態度に関する項目が他の項目に比べ、正答率が低いので単に覚えて、それを活用していくのではなく、それぞれのものが、どのような意味を持ち、どのように活用されていくのかという原理を大切にしていきながら、授業を進めていく。

## 4. 数学の授業改善策

1年生については、特に比例関係についての正答率が低いので、関数の意味、一つのもので決定すると、もう一つのものでどのような規則性を持って決定していくかの関係を、具体例も織りまぜながら丁寧に指導していき、理解、定着を深める。

2年生については、特に1次方程式についての正答率が低いので、連立方程式や、1次関数の指導を通して、方程式の意味や解き方について、再度考えさせ、理解、定着を深める。

3年生については、おおむね良好なので、引き続き、現在の指導を継続していく。

# 授業改善推進プラン

教科 理 科

## 1. 理科における平成22年度授業改善プランの検証

- 3学年（検証は22年度2年生の資料をみている）では、他のどの正答率よりも低い。特に物理分野において実験・観察を通し「技能・表現」の力を伸ばし、それに伴い目的の理解と結果から法則性を見いだすことで「知識・理解」の定着を図ったが、実験の目的が理解しきれないうちに実験を行っていたと推測され、その結果として実験に際しどのような現象が起きているのかを考えず「科学的思考力」の低下を招き、法則性を見いだせず「知識・理解」の定着には至らなかったと考えられる。
- 2年生では、区平均正答率よりすべて高くなっており、「技能・表現」と「知識・理解」は期待正答率を上回っている。しかし、「科学的思考力」は大幅に下回っており、普段から科学的思考能力を付けさせる訓練が足りなかったと痛感する。

## 2. 理科における調査結果の分析

- |          |   |
|----------|---|
| 内容別結果の分析 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○1学年は、すべての内容について、校内正答率は期待正答率を上回っているが、特に生物分野での正答率が、他の領域・内容に比べかなり高い。</li> <li>○2学年では、どの内容も校内正答率が期待正答率に迫る値であるが、総じて低い。「植物のつくりとはたらき」は期待正答率を上回っている。</li> <li>○3年生は、どの内容も校内正答率が期待正答率に迫る値であるが、総じて低い。「電気の世界」、「マグネシウムと酸素の化合」、「空気中の水蒸気の変化」の内容は、期待正答率を上回っている。しかし、「電流と電圧」の内容は顕著に低い値を示している。</li> </ul> |
| 観点別結果の分析 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○1学年では、「観察・実験の技能・表現」が若干低い値を示しているが、すべての観点で期待正答率を上回っている。</li> <li>○2学年は、「観察・実験の技能・表現」と「自然現象についての知識・理解」については期待正答率を上回っているが、「関心・意欲・態度」と「科学的な思考」については大きく下回っている。この差が顕著な結果となっている。</li> <li>○3学年は、「関心・意欲・態度」と「科学的な思考」は期待正答率に迫っているものの、他の2観点では総じて低い。</li> </ul>                                     |

## 3. 調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. 実験・観察、概念（目に見えないものを想像する力）が弱い。
  - 実験・観察では、確実に目的を理解させ、結果をまとめる力をつけ、知識として定着させる。物理分野では、直接目に見えない概念的なものについては、教材の工夫（主に視覚化）をはじめ、できるだけ多くの身近な事象の例示を上げ、理解しやすいものとして捉えられるようにする。
2. 1学年は4観点ほとんどが高いが、2学年では他の3観点に比べて「関心・意欲・態度」が低さが目立ち、3学年は関心・意欲はやや高いものの他の観点は低い。
  - 関心・意欲を高めるために、教員主導の授業展開にはしない。特に単元の導入部。当該時の授業目的の明確化と、まとめ。個に対応した授業展開。よく誉めあげることで、生徒に達成感を感じさせ、次への学習意欲へつなげる。

## 4. 理科の授業改善策

1. 目的・意識的な実験を行う。
  - ・第1学年 基礎的・基本的な器具の操作に慣れ、実験・観察を正しく行えるようにする。操作を習得できた生徒には、サブティーチャーとして認定し、班内はもちろん、他の生徒にも助言させる。
  - ・第2学年 実験の目的を明確にし、生徒に主体的に実験を行えるよう指導していく。また、実験後のまとめで生徒に発言・考察させることで定着を図る。イメージ力を高めさせ、3年の「運動」につなげる。
  - ・第3学年 実験・観察の時には、目的をはっきり指導・理解させ、実験の過程を推測・重視させるようにし、結果について今までの知識を踏まえ科学的に考えまとめ、新たな知識として定着させていく。
2. 関心・意欲を高める。
  - ・第1学年 単元導入時を主として、これからの授業内容を絡めた実験や話題から授業への意欲を高める。
  - ・第2学年 授業内容を絡めた演習実験や話題から興味を持たせ、問いかけを増やすことで意欲を高める。
  - ・第3学年 発言やプリントの解答等をよく誉めてあげることで達成感と、次への意欲を高める。
3. 知識・理解の定着度をはかる。
  - ・第1学年 学習は知識の積み重ねであることを折りに触れ話し、発問やプリント等で知識の定着をはかる。
  - ・第2学年 演習問題を解くことにより科学的読解力を高め、多くの場面で知識を『活用する力』を育成する。
  - ・第3学年 1・2年の知識の重要性を理解させ、課題の設定を工夫し、定期テストにも配慮する。

# 授業改善推進プラン

教科 英語

## 1. 英語における平成22年度授業改善プランの検証

- ・前年度も概ね全ての項目において期待正答率を上回っており、少人数習熟度別学習形態が功を奏していることがうかがえる結果だった。基礎基本を大切に、少人数の利点を生かし、個別の取り組み(インタビューテストやノート点検など)を引き続き行ってきた。
- ・各学年とも、意欲的に英語で表現し、使えるよう指導を継続してきた。英語は4技能「聞くこと」・「話すこと」・「読むこと」・「書くこと」をいかに使いこなせるかがポイントだが、前年度は自己表現能力(なかでも書くこと)を向上させるために重点的に取り組んできた。引き続き今年度も重点的に取り組んでいく。

## 2. 英語における調査結果の分析

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語科全体の校内平均正答率は、ほぼ期待正答率・区平均正答率ともに上回っており、良好な結果であった。特に3年生は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」全てにおいて、13%以上も期待正答率を上回る結果となった。2年生は「聞くこと」「読むこと」において期待正答率を上回ることができた。</li> <li>・今後の課題としては、唯一、期待正答率を下回っている2年生のリスニングの正答率を上げることである。授業での英語を聞かせる場面を意識的に増やし、苦手意識をなくさせることが必要である。</li> <li>3年生は期待正答率を全て上回ったものの、「読むこと」が他よりも低いので、長文を読ませる機会を増やしていきたい。</li> </ul>
観点別結果分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての観点において期待正答率・区平均正答率ともに上回っており、良好な結果であった。特に「コミュニケーションへの意欲・関心・態度」と「理解の能力」の観点において正答率が高かった。「表現の能力」や「言語や文化についての知識・理解」でも同じような高い正答率が出せるようにしたい。昨年度表現ができなかった2年生においては、集中的に文を書かせる機会を増やしたことから、身についた生徒も多いのではないかと。</li> </ul>

## 3. 調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. リスニング力を向上させるために
  - 授業の中で毎回リスニングの問題に取り組み、問題傾向にも慣れさせる。それから、教師自身も英語をたくさん使うように心がけ、生徒が理解した、自己表現にもつなげていきたいと思う。
2. 長文・会話文の読み取り能力を向上させるために
  - 教科書の内容を理解するだけでなく、それを自己表現につなげられるようにする。内容はわかかっていても、質問されると答えられないなど答え方がわからなくて、解答出来ない場合が多い。答えの表現などをマスターさせることも必要である。そして、さらに教科書以外の文章にもふれさせ、楽しく読むことも自ら読むことにつながると思うので、機会を作っていく。

## 4. 英語の授業改善策

1. リスニングを向上させるために
  - ・第1学年:まずは教師が積極的に英語を活用する。まだ、文章をたくさん聞かせることよりも、単語のレベルから理解させる。ビンゴなどを活用し、耳に慣れさせる。
  - ・第2学年:授業の始めに習った文法を使った会話文を聞かせたり、質問に答えさせたりする。場面設定をして、聞こえる単語から推測して聞く練習にもつなげたい。
  - ・第3学年:5分程度のリスニングを毎時間授業で行い、聞くことに慣れさせる。聞くだけでなく、発音の確認も行い、正しく発音を覚えることでそれがリスニング力にもつながることを理解させる。
2. 長文・会話文の読み取り能力を向上させるために
  - ・第1学年:教科書の文章を基本とし、正確に読み場面の把握ができるようにする。内容が易しいものに関しては、わかる単語から推測させる練習をしていく。
  - ・第2学年:教科書の本文が少し長くなるので、やはり本文を中心に読ませ、そこから自分が考えたことなどを表現させることにつなげていく。Q&A をどんどん活用していく。
  - ・第3学年:教科書から発展させて、いろいろな種類の文章にふれさせる。受験問題もさまざまなので、読む機会を増やし、自己表現にもつなげたい。

## 授業改善推進プラン 教 科 音 楽

### 1. 音楽における平成22年度授業改善プランの検証

- ・合唱に対する意欲は比較的が高かったが、基本的な発声法などを身につけ、より充実した合唱活動を行うことが必要だ。同時に豊かな表現力を身につけていく指導の工夫が必要である。
- ・授業の振り返りシートを活用し、生徒の学習状況を確認しながら一人ひとりの様子を考えながら、授業を行った。
- ・自主的に取り組む姿勢の育成、個々の良さを発見し、認めあえる活動が必要である。

### 2. 音楽における授業の分析

- ・合唱においては、リーダーを中心に自主的に練習に取り組み、習得すべきことを考えながら活動する姿勢を育てるとともに、曲想や歌詞から感じ取ったことを表現に活かす工夫を指導する必要がある。
- ・鑑賞においては、聴く観点を明確にすると同時に、互いが感じとったことを伝えあい、共有することで楽曲への理解を深めると同時に、仲間の良さや新しい面を知る機会を作ることが大切である。
- ・音楽に対する理解を深め、魅力を感じる柔軟な心を育成するために、様々な音楽に触れ、音楽の持つ様々な魅力を感じられるような活動を取り入れることが大事である。
- ・忘れ物や遅刻の管理を徹底する必要がある。

### 3. 分析結果に基づいた授業改善のポイント

- ・音楽室の使い方・授業ルールの徹底についての継続的な声かけを行う。
  - ・音楽に対する興味だけではなく、根本的な理解を深める活動作りを心がける。
  - ・毎時間の授業のねらいと流れを分かりやすく生徒に伝え、目標を持って取り組めるようにする。
- 《表現(歌唱)の活動》
- ・練習する内容を練習したことが活かされ、発展する流れを作り、やりがいを感じる活動にする。
  - ・表現力を豊かにするために歌詞や曲想を考える教材を工夫し、意見を交換して深める場面を作る。
- 《鑑賞の活動》
- ・鑑賞する楽曲の理解を深めるための教材・教具を工夫し、生徒が考え発言する活動を取り入れる。
  - ・言語的な活動は、言葉で表現する力の育成だけでなく、言葉で表現する喜びや友達と感動を共有する喜びを感じる心情を育むことも重視する。

### 4. 音楽の授業改善策

- ・音楽室の掲示物を工夫し、音楽室や授業ルールを視覚的に伝えるなど工夫する。
  - ・歌う・聴く・考える・話す・書くなどの活動をバランス良く取り入れる。
- 《表現の活動》
- ・練習の形や内容を明確にし、自分自身で考え取り組めるようなワークシートを活用して、自主性を育てる。
  - ・歌の小テストを行い、生徒の習得状況を確認・評価すると同時に、生徒が目標を持って取り組めるようにする。
  - ・やりがいや表現することの楽しさを感じる活動にするために、楽曲から音楽的な知識を確認しながら深め、習得したことを活かして全体での練習を行っていく。
- 《鑑賞の活動》
- ・楽曲の理解を深めるために、写真など視覚的なものやワークなどを活用して興味や関心を高めると同時に、音楽を構成する要素やパターンなどの学習も丁寧に行う。
  - ・鑑賞するポイントを明確にし、感じ取ったことをどのように表現するか、言葉に対する道筋を示す。
  - ・感じ取ったことを交換し合い、具体的なやりとりを行う活動を取り入れる。

## 授業改善推進プラン

教科

美 術

### 1. 美術における平成22年度授業改善プランの検証

「授業ごとに本日の作業ポイントの明確な提示を行う」「お互いの作品鑑賞」「基礎基本の徹底と個々に応じた応用力の向上を目指した対応」を行うようにした。また、授業規律のある、落ち着いた環境作りを目指し、学年の子供たちに見合った内容の授業を工夫するように心がけた。  
昨年度1年間で、どの学年も徐々に、いい取り組みができる状況になってきている。今年度さらに意欲的な取り組みができるように、工夫された授業づくりを進めていきたい。

### 2. 美術における授業の分析

全体的に制作への関心・意欲が高い。楽しんで制作に取り組む姿勢が感じられる。ただ一部の生徒は、最後まで持続力が保てない状況がある。また、発想・表現活動の苦手意識からか、授業の集中度が今一つ低い生徒もいる。発想・アイデアの段階で悩む生徒が多い。  
どの生徒にも、個々に目標をもたせ、最後まであきらめずに意欲的に制作していくことができるような授業にしていきたい。

### 3. 分析結果に基づいた授業改善のポイント

- 学習規律の徹底。
- 基礎基本の定着。個々に応じた応用力向上への手助け。
- 個人差はあるものの意欲のある生徒が多いので、クロッキー帳やプリントを用いて、個人における作品の目標を定め、計画的に作業を進める。
- 資料や参考作品を用意するなど、課題に対してイメージを作りやすくし、意欲的に取り組める環境を常に整える。

### 4. 美術の授業改善策

1. 授業の最初に本時の目標・内容・注意点を全体で確認し、制作を進めていく。
2. 課題は基礎的な作業を中心とし、どの生徒もものづくりの楽しさが味わえるようにする。応用力のある生徒には、工夫を重ね、技術面でもさらなる向上をめざし、個に応じた制作をする。
3. お互いの作品の良さを見いだすことで、自らの向上心につながるように、他クラスの作品を鑑賞できる展示環境を作る。
4. 3年間の中で、できるだけ多くの素材や材料に触れ、基本的な技術を身につける。また学年が上がるにつれて、習得した技術を選択したり、工夫したり、応用させるなどして表現活動が行っていけるようにする。
5. 個々の活動だけにととまらず、作品を通してお互いにコミュニケーションがとれる内容を授業に組み入れる。
6. 想像力を高め、発想やアイデアをたくさん生み出せるように、ワークシートなどに工夫する。

## 授業改善推進プラン

教科 保健体育

### 1. 保健体育における平成22年度授業改善プランの検証

・授業の説明や技の見本を見せるときには、視覚教材を用いて意欲を引き立てるように工夫できた。  
・学習カードへの記入により、自己を振り返り、考え、判断しながら授業ができた。  
・準備運動時の、体ほぐし運動や体力を高めるための運動を継続的に行うことにより、少しずつではあるが体力が向上した。しかし、運動を日常生活の中で意識的に取り組む習慣が確立できていない。  
・視覚教材を用いて保健の授業を行い、意欲的に取り組めた。

### 2. 保健体育における授業の分析

<関心・意欲・態度>  
・どの種目においても関心の高い生徒が多い。また、授業開始や終了時の整列やあいさつもきちんとできている。今後は生徒同士での教え合い、学び合いにつながれるとよい。  
<思考・判断>  
・1・2年時に正しい動作や練習方法への理解を深めることで、3年では自己の課題を解決するための練習を考え、行うことができるとよい。また、授業内容を振り返り感想や自分の考えが書けるようになるとうい。  
<技能>  
・基礎基本の徹底を1・2年時に行うことにより、3年では発展的な内容ができるようになってきた。

### 3. 分析結果に基づいた授業改善のポイント

<関心・意欲・態度>  
・教科書や視覚資料を用い、より関心を高めるようにする。また、競技によってはグループ学習を通して教えあい、学び合いの学習ができるようにする。  
<思考・判断>  
・学習カードを活用し、学習の振り返りを行い、動作や練習方法についての理解を深めるとともに、自己の課題を発見させる。  
<技能>  
・自己の課題発見や課題解決に向けて、習得の学習に力を入れる。個に応じた学習や指導方法の工夫を行う。

### 4. 授業改善策

<関心・意欲・態度>  
視覚教材を用い、より関心を高められるようにする。他の人の運動する姿勢や模範となる生徒の練習方法などを自ら進んでできるように、ダンス・武道の外部専門指導員と共に声かけや指導方法を工夫していく。  
<思考判断>  
記入方法や記入時期は今後も継続して工夫していく。種目ごとの到達度や自己反省欄を設け、生徒が自ら考え判断できるような学習カードを作成する。  
<全体的に体力面に劣る>  
授業内で、5分走や補強運動を行うなどスポーツ推進校として、体力を高める運動を取り入れて継続していくことにより、体力面を向上させていくことができたので継続していく。体力面の向上が個人で分かるような資料を作成し、日常生活に意識的に運動を取り入れるようにする。  
<生涯にわたり運動に親しむ態度を育てる>  
体を動かすことの楽しさや運動を觀賞したりすることも運動に親しむことだということを理解させる。

## 授業改善推進プラン

教科

技術・家庭

### 1. 技術・家庭における平成22年度授業改善プランの検証

#### 技術・家庭分野

全体的には、どの学年も興味・関心をもって意欲的に授業に取り組んでいるが、実技の作業分野では個別にアドバイスを与えているが、作業の進行に差がでてしまう生徒がいる。

### 2. 技術・家庭の授業の分析

技術分野では全学年を通して、知識・理解、関心・意欲・態度は、十分あるいは、おおむね満足できるが、作業（技能）になると情報（コンピュータ）をのぞき、評価に差が出る生徒が多くなってきている。

全学年を通して家庭分野では、意欲・関心は高いが、実生活での体験や経験が少ないので、知識が技能につながりにくい。

### 3. 分析結果に基づいた授業改善のポイント

#### 技術分野

基礎的な学力を身につけさせるためには、生徒のやる気を起こさせることが大切である。そのために、生徒が興味を持てるような教材を開発し、生徒の反応を感じながら授業を進めていきたい。目標を達成したところで大いにほめ、がんばった分評価する。達成感は次へのステップとなり、完成した作品への思いやりも出てくるだろう。  
授業ごとに自己評価をつけさせ、客観的に自分を見つめることができるように工夫することで、課題を発見し、解決できる能力身につけさせたい。

### 4. 技術・家庭の授業改善策

#### 技術分野

興味・関心を持てる教材を選び、その学年の実態にあった教材を開発していく。  
作業の進行状況や理解度が本人にフィードバックされ、自己評価カードにアドバイスできる工夫をする。  
観点の重みづけは、実技的な能力を踏まえ考慮していく。  
作業に遅れがある生徒は、放課後など時間をつくり、レベルに合ったグループ学習し、わかりやすく、余裕を持たせるよう指導する。  
1年生からコンピュータの操作方法や情報のモラルなどを指導し、総合や道徳、行事などの事前・事後、まとめ学習に役立てる。物づくりでは成長を考え、能力に合った教材開発と指導にあたる。

家庭分野では、「衣・食・住」の学習を1. 2年次で学習し、3年次では、消費と環境の学習を通して3年間のまとめをしていく。さらに家庭生活へと実践できるように指導していきたい。